

第3学年 道徳科学習指導案

- 1 主題 個性の伸長（A-4）『「女の子だから・・・」「男の子だから・・・」？』
（古賀市人権教育副読本『いのちのノート』より）

2 指導観

○子どもの実態

本学級は学年単学級で、1年生からクラス替えを行っていないこともあり、全体的に仲がよく、休み時間などは活発に遊ぶ姿が多く見られる。しかし、水泳の授業で安全確認の2人組を組むときに、男の子と女の子のペアになると手をつなぐことに躊躇する場面が見られた。これは、それぞれの存在を異性として意識している現れといえる。

子どもたちは、これから4年生に向けて学習面や生活面において様々な取組を行う中で、「男の子だから」「女の子だから」と意識する場面が増えることが予想される。この時期に本題材を学習することで男女の固定観念にとらわれないよさを知ることは、それぞれの持ち味を発揮しながら一人一人が成長していくという今後の生き方を考えさせる意味においても意義深い。

○主題の価値

個性の伸長とは、自分のよさを生かし、さらにそれを伸ばし自分らしさを発揮しながら調和の取れた自己形成を行うことである。子どもが将来に渡って自己実現するためにも、重視される内容である。中学年の頃は自分の特徴を多面的に捉え、自分の長所に気付くことが必要である。自分の長所を伸ばしていくことで新たな長所にも気付くことができ、将来に向けての自己実現につながると思う。そのために、子どもが視野を広げ、他の人々の多様な個性や生き方に触れ、あこがれや希望を抱く多様な場面や機会を生かしていけるようにしたい。しかし、その中で「男の子だから」「女の子だから」という男女の固定観念があると、自分の個性を生かしていく上で妨げとなる場合も少なくない。

そこで、異性への意識が芽生えるこの時期に、男女の固定観念にとらわれることなく自分の個性を伸ばしていこうとする態度を育むことは、高学年において、互いの特徴を理解し男女の友情を育むことにもつながっていくと考える。すなわち、男女共同参画社会の基礎となる上で意義深い。

○資料の活用について

古賀市で毎年独自に編集・活用している人権教育副読本『いのちのノート』を用い、「女の子はダメ」とサッカーに入れてもらえない女の子と「男の子だから泣くんじゃない」と怒られる男の子の挿絵から、自分の経験を踏まえて、それぞれの子どもに共感させながら、男女の固定観念に対して疑問をもたせる。そして、男の子がお菓子を作る絵やザリガニをつかまえる女の子の絵にも共感させることで、男女の固定観念をなくせば、自分の「したいこと」「できること」が増えると言うことに気付かせたい。さらに「かがやき」の「はたらく」の写真を見せ、男女の固定観念を無くすことで、働く場が増えよりよい社会になることに気付かせ、日常生活でも男女の区別なく、自分のよさや個性を伸ばしていこうとする意欲をもたせたい。

3 本時指導の考え方

本時では、身の周りで男女に分けていることについて考え、男女にとらわれないことで活動や進路の選択肢が広がるということを理解し、自分のよさや個性を伸ばしていこうとする意欲と態度を育むことを目的としている。そこで「つかむ段階」では、『いのちのノート』の挿絵のように、「女の子だから」「男の子だから」と言われた経験がないかを想起させ、「女の子だから～」「男の子だから～」と分けられていることについて考えよう」という課題意識をつかませる。次に「さぐる段階」では、挿絵のように言われたときにどのような気持ちになったかを思い出させ、交流させる。その際、男女のペアで交流させることで、男子も女子も性別の固定観念に疑問をもっていることに気付かせたい。そして、男の子がお菓子を作ったり、女の子がザリガニをつかまえたりする挿絵を見て感じたことを交流させる。各班で感じたことをホワイトボードにまとめ、黒板に掲示することで、「女の子だから」「男の子だから」と決めつけない方が、「したい」こと、「できる」ことが増えるということを視覚的に理解させたい。そして「ひろげる段階」では、高学年の「かがやき」にある「はたらく」の写真を掲示する。これにより、男女の固定観念にとらわれずに、自分のよさや個性を伸ばすことが社会に出て活躍の場が広がるということに気付かせ、日常生活でも男女の区別なく、自分のよさや個性を伸ばしていこうとする意欲をもたせたい。

4 本時の目標

性別による固定観念にとらわれないことの大切さに気付かせ、それぞれのよさや個性をのばしていこうとする態度を育てる。

5 展開

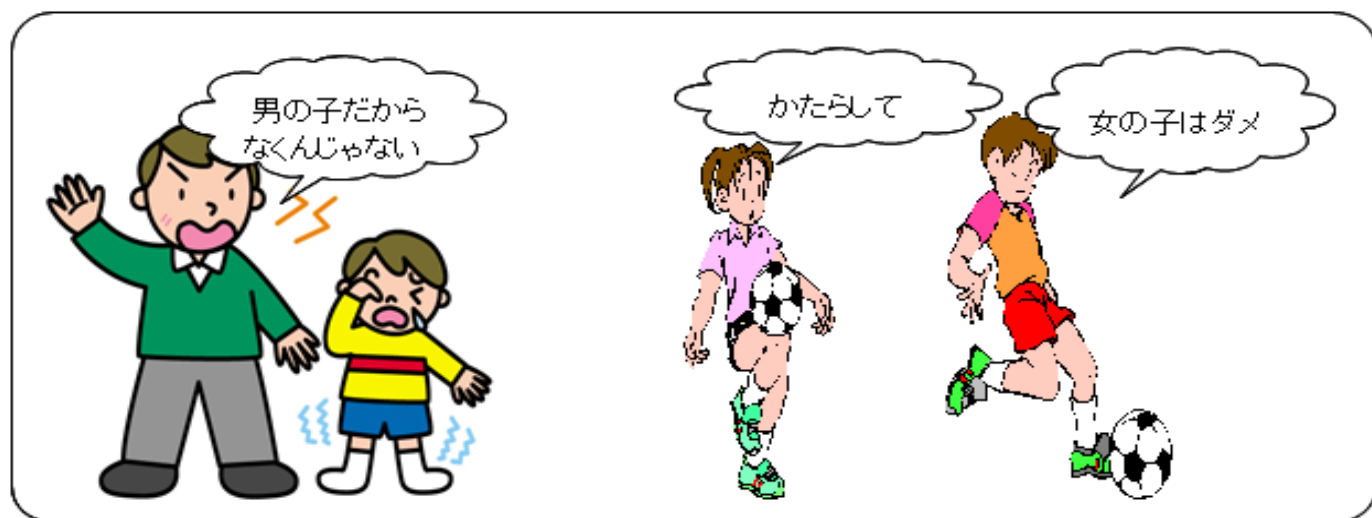
＜人権の視点から＞

本時の指導においては、人権が尊重される授業づくりの視点から3つの学習を行う。

- ・視点①「自己存在感をもたせる支援」について
「さぐる」段階で、班の話し合い活動をホワイトボードに書き、黒板に貼らせることで子どもが授業に参加しているという実感をもたせる。
- ・視点②「共感的人間関係を育成する支援」について
クラス全員が発言者の方を向き、発表に対してうなずくなど反応をするようにさせる。
- ・視点③「自己選択・決定の場の設定」について
「きづく」段階で、掲示された絵を基に自分の経験から男女の固定観念についてふり返らせる。
「さぐる」段階で、自分で絵を選択させ、気付いたことを発表させる。

段階	学習活動と子どもの意識の流れ	教師の支援
つかむ	<p>1 古賀市人権教育副読本『いのちのノート』P2の囲みの絵を見て話し合い、同じような経験はないかをふり返り、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子だから泣くなと言われた。 ・女の子らしくしなさいと言われた。 ・女の子だからサッカーには入れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○囲みの絵を掲示して経験をイメージしやすくする。 ○男の子が泣く絵だけでなく、女の子にも同じ経験がないか想起させる。 ○サッカー以外でも同じ経験がないか想起させる。 ○自由に発言できる雰囲気づくりに心がける。
<p>「女の子だから～」「男の子だから～」と分けられていることについて考えよう</p>		
さぐる	<p>2 「女の子だから～」「男の子だから～と言われたことについて話し合う。</p> <p>(1) 「女の子だから～」「男の子だから～」と言われたことはないかふり返り、そのときにどんな気持ちだったか、いのちのノートに書き込む。</p> <p>(2) 男女のペアで お互いの経験を交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>どんなこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子だからめそめそするな ・女の子らしい遊びをしなさい </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>どんな気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子は泣いてはいけないの？ ・女の子はおとなしくしなければいけないの？ </div> <p>～男女の交流～ 女子も男子も同じ思いをしたことがあるんだ。</p> <p>(3) P2の下の絵を見て、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で話し合う ・全体で交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>絵を見て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくもケーキを作ったことがあるよ。 ・私もミニ四駆をもっているよ。 ・ぼくも料理をしてみたい。 ・男女関係なかったらできることが多くなるね。 </div> <p>3 学習のまとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことが難しい児童は机間指導中に1の活動から自分の経験を考えさせる。 ○男女で交流させることで、女子も男子も性別の固定観念で嫌な思いをした経験があるということに気付かせる。 ○全体交流で、男女関係なく、男女の固定観念に対する疑問を、みんなもっていたことを共通確認させる。 ○各班にホワイトボードに記入させ、全体交流で黒板に掲示することで、全員の意見が黒板に反映するようにする。 ○絵以外でも同じような場面に気付いた時は発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノを弾く男の子 ・野球をする女の子など
<p>「女の子だから」「男の子だから」と決めつけることなく、それぞれのよさや個性を生かすことが大切。</p>		
ひろげる	<p>4 社会の中で活躍している人も、男女関係なく自分の力を伸ばしていることを知り、自分らしさを伸ばそうとする意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の人のバス運転手もよく見かけるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○男性のパティシエや女性の運転手の写真を掲示して、社会で活躍している人が、男女の区別なく自分の力を伸ばしているということを視覚的にとらえやすくする。

「女の子だから・・・」 「男の子だから・・・」?



めあて

月 日 ()

1. 「女の子だから」「男の子だから」と言われたことがありますか。
ある ない (○でかこむ)

☆あったら、それはどんなことですか。

☆そのとき、あなたはどんな気持ちでしたか。



2. 2ページの下の絵を見て気付いたことを書きましょう。



3. 今日の学習の感想
